

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

| 事業所名 | | 留萌市子ども発達支援センター | | | 公表日 | | 令和 8年 3月 31日 | |
|----------------------|-------------------------------------|--|----|---------------|--|---|---|--|
| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | |
| 環境・ 体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。 | 9 | 1 | | <ul style="list-style-type: none"> 指導前に振り分けをし、スペースの確保を行っている。時間割を6コマにしたことで混雑することが少なくなっている。 時間割を見直し、3コマから6コマに変更したことで、未だ朝一等特定の時間に指導が集中してしまうが、個別指導の部屋が充足するようになった。 利用人数が多い際は事前に指導室を割り当てる等して。 9時の枠を希望する人が多い。保護者の意向の他にも職員間で話し合いをし、必要な人が必要な時に希望する場所で療育ができる環境にしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 朝一に指導が集中することは今後も予測されるため、ペアや小集団での活動も組み入れたり、プログラムの工夫をする等の対応は今後も必要である。 | |
| | 2 | 職員配置は適切であるか。 | 7 | 3 | | <ul style="list-style-type: none"> 出席者数は定員の7割程度で推移しており、体制的には一人当たりの指導数はまだ余裕がある状態となっている。 指導時間が3コマから6コマに増えた事で療育以外の業務時間を有効に使用している。 | | |
| | 3 | 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 9 | 1 | | 冬のプレイルームは床暖房では寒いので、個別療育の部屋で過ごすなどその時の状況で決めている。 | | |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか。 | 8 | 2 | | | | |
| | 5 | 職員評価及び保護者評価の結果を踏まえ、事業所としての評価を行い、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。 | 10 | | | | | |
| | 6 | 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか。 | 10 | | | 勉強の機会がもっと増えたらと思っている。 | | |
| 適切な 支援の 提供 | 7 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で支援計画を作成しているか。 | 10 | | | | | |
| | 8 | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。 | 9 | 1 | | | | |
| | 9 | 支援計画に沿った支援が行われているか。 | 10 | | | | | |
| | 10 | 子どもの状況に応じて、個人活動と集団活動を適宜組み合わせて支援計画を作成しているか。 | 10 | | | | | |
| | 11 | 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。 | 8 | 2 | | <ul style="list-style-type: none"> 必ずではないが、できるだけ確認している。 情報共有を行っている。 ほのぼのその日の指導内容など共有できるようにし、予定しているプログラムに合わせた教材、指導室の配置を話し合っている。 朝の打ち合わせをうまく利用できていないと思う。 | | |
| | 12 | 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。 | 5 | 5 | | <ul style="list-style-type: none"> できるだけその日のうちに打ち合わせを行っているが、業務の都合等でその日のうちに振り返りを行えず、後日情報共有や話し合いを行う場合もある。 必ずではないが、できるだけ確認している。 毎回ではないが情報共有を行っている。 指導の合間に職員間での情報共有でき、また支援内容・指導記録はどの職員でも閲覧できる状態になっている。 ほぼされていると思うが、状況によってはできないときもあり、次の日などに話し合う時もある。 | | |
| | 13 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 10 | | | <ul style="list-style-type: none"> 記録に要する時間がかかりすぎている印象がある。 システムで自分以外の職員の記録も閲覧でき、こういった意図で療育をしていたのかを確認できる。 | 記録の様式の変更を検討する。 | |
| 14 | 定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断しているか。 | 10 | | | 支援計画の確認の際に内容が変わっていることがあり、その際はこういった意図でそうなったのか理由を聞きたい。 | | | |
| 関係機関 や保護者 との連携 | 15 | 障害児支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。 | 10 | | | | | |
| | 16 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。 | 10 | | | 必要に応じて行っている。 | | |
| | 17 | 移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 10 | | | 時間割の見直しにより、訪問や見学の機会を大幅に増やすことができ、情報共有が図れている。 | | |
| | 18 | 移行支援として小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 10 | | | 小学校へのケース連絡や新一年生の情報を提供している。同席している教育相談や就学相談の結果も共有できるようにしていきたい。 | | |
| | 19 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。 | 8 | 1 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度は他の地域の発達支援センターと関わる機会がなかったが、研修や情報共有・連携など積極的にしていけたらと思っている。 医療受診に同行し、助言等を各関係機関で共有している。 医療受診同行など積極的に行い、専門機関や関係機関との連携を図っている。リモートでの研修も増え、以前より参加しやすくなっている。 | 転居等の際に連携を取るばかりではなく、学び合う機会があればと思う。 | |
| 20 | 地域の子ども・子育て支援会議へ積極的に参加しているか。 | 7 | 2 | 1 | 会議のメンバーではない | | | |

| | | | | | | | |
|------------|----|---|----|---|---|--|---|
| | 21 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 10 | | | 医療や教育相談等への同席、またその振り返りの懇談も積極的にい、発達の共通理解を図れている。 | |
| | 22 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対し家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）等の支援を行っているか。 | 8 | 1 | 1 | 保護者との懇談、また母子通園の指導の中で関わり方の助言・指導を行っている。必要に応じて医療のペアトシのプログラムを勧奨したり、利用児、保護者と一緒にSSTに参加したりもしている。 | 保護者のニーズに応じて、対応についてより詳しく知る機会があってもいいように思う。 |
| 保護者への説明責任等 | 23 | 保護者会等を開催するなど、保護者同士の連携を支援しているか。 | 1 | 7 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 夏祭りの準備・開催等がお父さん同士の交流につながっている。指導時間が同じ保護者同士で交流を持てるよう支援しているが、いろんな保護者同士が交流を持てる機会は少ないかもしれない。 夏祭りやグループ活動等の中での交流はできていたが、交流することを目的とした保護者会という形では開催されていない。 おやじの会主催の夏祭りなどでは、保護者同士の関わりを持てるように促している。 おやじの会で夏祭りを実施し、手伝い等で交流する機会を設けている。 母の会の交流の場がない。 夏祭り以外で保護者同士が触れ合ったり、交流できる場は必要かもしれない。おやじの会の懇親会は開催できた。 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズに応じて、開催を検討していく。 交流できる場を設定していきたい。 研修や懇親会（母の会）を開催できれば。 |
| | 24 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 10 | | | <ul style="list-style-type: none"> いつでも相談できる環境を整えている。 療育相談会や学校・園からの相談、直接保護者からの相談など、相談の窓口を広げ臨機応変に対応している。関係機関との連携の効果がみられ、小学生の相談は増え、またこれまでなかった中学生や高校生の新規の相談もあった。 | |
| | 25 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。 | 10 | | | <ul style="list-style-type: none"> 毎月、通信を予約アプリで配信している。 通信に加え、必要な情報はアプリでの配信を行っている。 | アプリを活用した情報発信は引き続きしていきたい。 |
| | 26 | 個人情報の取り扱いには十分注意しているか。 | 10 | | | | |
| | 27 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 10 | | | | |
| | 28 | 行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 10 | | | <ul style="list-style-type: none"> 夏祭りでは地域の方にも参加してもらえるようにポスターを掲示し、周知している。 市民セミナーや夏祭りを開催している。市民セミナーは内容や周知方法などの検討が必要。 | |
| 非常時等の対応 | 29 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知すると共に発生を想定した訓練を行っているか。 | 6 | 4 | | 火災、地震時に備えた通報・避難訓練は実施できている。 | 感染症や防犯対策に関する研修も実施していきたい。 |
| | 30 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 10 | | | <ul style="list-style-type: none"> 年2回以上避難訓練を実施している。 火災、地震時に備えた避難訓練は、今年度は3回実施。 | |
| | 31 | 事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。 | 10 | | | 入園前に、保健師情報や保護者からの聞き取りで確認している。 | |
| | 32 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか。 | 8 | 2 | | <ul style="list-style-type: none"> クッキング等の食事やおやつが提供される場合には、保護者と参加の有無や内容について一緒に検討している。 クッキング等の際に事前確認を行っているが、入園時により詳しく情報を得ておく事も重要かと思う。 | |
| | 33 | ヒヤリハットの事例集を作成して事業所内で共有しているか。 | 6 | 4 | | <ul style="list-style-type: none"> 発生した際には作成しているが、共有の難しさを感じている。 今年度は大きな怪我はなかったが、引き続きヒヤリハット含めて、職員の日頃の安全に対する心構えや安全対策の研修等が必要 | ケース検討会議や安全対策の研修なども実施していければと思う。 |
| | 34 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 10 | | | | |
| | 35 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、支援計画に記載しているか。 | 6 | 4 | | <ul style="list-style-type: none"> 現状として拘束をしないといけないお子さんがいない。 現状として必要になった際には、十分にインフォームドコンセントした上で、支援計画にも記載したい。 | |